

社会科における子どもの社会参加のための資質・能力の基礎を育む授業づくり
～「専門家コミュニティ」との関わりを生かした問題解決を通して～

会津若松市立永和小学校 福島県教育センター長期研究員 渡邊 匡彦

1 研究の趣旨

中央教育審議会答申では、主体的に社会の形成に参加しようとする態度の育成が社会科の課題の1つであるとしている。その要因について、子どもが社会との関わりを意識しないで成長していることや、実際に社会に関わる経験が少ないことであると捉え、小学校段階から社会参加のために必要な資質・能力を意図的に育てていくことが重要であると考えた。

そこで、単元の学習においてⅠ.「問題把握」→Ⅱ.「問題分析」→Ⅲ.「意思決定」→Ⅳ.「提案・実践」という問題解決のプロセスを重視し、社会に向けた「提案」や社会と協働した「実践」の場面を授業に位置付けることが有効であると考えた。また、社会参加のための資質・能力の基礎を「科学的・社会的認識」「意思決定力」「社会的実践力」の3つに分類し(唐木, 2010)※1、科学的・社会的認識→意思決定力→社会的実践力と段階的に各資質・能力を育みたいと考えた。本研究では、学習内容に関わる地域の専門家や関係者、関係諸機関などを一つの共同体として考え「専門家コミュニティ」と定義付け、効果的な連携や協働を図りながら問題解決を通して主題に迫ろうとした。

※1 唐木清志(2010)「社会参画と社会科教育の創造」

小学校社会科の「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の内容において、以下の視点に基づき「専門家コミュニティ」との関わりを生かした問題解決を行えば、社会参加のために必要な資質・能力の基礎が育まれるであろう。

【視点1】 カリキュラム・マネジメントの視点を生かした資質・能力を育む単元づくりの工夫

【視点2】 子どもの問いや考えの焦点化、共有化、可視化を図る授業づくりの工夫

2 研究の概要

(1) カリキュラム・マネジメントの視点を生かした資質・能力を育む単元づくりの工夫

- ① 教科横断的なカリキュラム編成表の作成
- ② 「提案」や「実践」を位置付けた単元構想図の作成

(2) 子どもの問いや考えの焦点化、共有化、可視化を図る授業づくりの工夫

- ① 問いの構造化による深まった学習問題への焦点化
- ② 「名札マグネット」を活用した思考の共有化
- ③ 効果的な振り返りによる思考の可視化

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 問題解決のプロセスに専門家コミュニティとの関わりを効果的に位置付け、学んだことを活用して社会に向けた「提案」や社会と協働した「実践」を行うことで、子どもは社会を意識し社会に関わる意味を見出しながら学び、「社会的実践力」を育むことができた。
- ② 身に付けさせたい資質・能力を明確にして、目標・指導・評価が一体化したカリキュラム・マネジメントを行うことで、関連が明らかになり意識的な指導を行うことができた。

(2) 今後の課題

- ① 専門家コミュニティとの関わりが何かを教わるという一方向だけでなく、問題解決に対する意見やアドバイスを求めたり、協働的な問題解決をしたりするような授業にしていくためには、関わる内容や回数、時期などを踏まえた授業デザインをする力が教師に求められる。
- ② 安易な「提案・実践」の授業にならないように、「意思決定」に至る議論の過程を重視した授業づくりが大切である。また、より効果的な「提案・実践」を行うために、全教職員の理解のもと時期や関連を明らかにしたカリキュラム・マネジメントを進めていくことが有効である。